

新中一準備講座

新栃木校1号館校長 津久井 幸

1. 中1生の準備は1月より開始

中学校で学習する内容は、小学校の内容と比べると格段に難易度を増します。そのため、テスト直前に教科書の見直しをする程度では、良い点数をとることが難しくなることも少なくありません。また、小学校で各単元ごとに行われていたテストとは異なり、1年間に実施されるテスト(定期試験)と呼ばれるものの回数は数回に限られます。その上、定期試験の点数が成績表に反映されるので、しっかりと知識を「定着」させ、1問でも多く問題を解けるようにしなければなりません。そこで開倫塾では、小6生で学習する内容を12月中旬に終了し、冬期講習から中1生の内容を先取りして行います。これが「新中1準備講座」と呼ばれる授業です。



2. 準備講座の内容

授業の内容は以下の通りです。
【英語】アルファベット・英語での挨拶・be動詞や一般動詞が入った英文を中心に学習します。各地域によって中学校で採用される教科書が異なるため、アルファベットや共通して出題される英単語の学習から始めます。教科書の基本英文を使った英作文の練習も行います。入学前に英単語をたくさん書けるようにすると共に、簡単な英文も習得することが目標です。

【数学】「正負の数」を学習します。初めて学習する負の数(ゼロより小さい数)をマイナスで表すを使った計算は、計算途中のミスが多く出やすいので、類題演習を繰り返し行い「定着」を図ります。小学校で学習した分数や小数の基礎が理解できていないと先に進むことが難しくなる単元でもあります。不安な人は早めに関心者に相談してください。

栃木県公立高校入試

足利西校校長 三井 英明

1. はじめに

栃木県の公立高校入試には、「特色選抜」と「一般選抜」の2種類があります。入学者の選抜方法が異なるので、とるべき対策も変わってきます。以下に、それぞれについて説明します。

2. 特色選抜とは

一般選抜より早く、今年度は2月6・7日に実施されます。基本的には希望者は全員出願可能ですが、高校ごとに「資格要件」が設定されています。自分が要件を満たしているかどうか、必ず学校の先生に確認しましょう。募集定員は、多くの高校が定員の30%程度を上限とするよう定められています。そのため、倍率は一般選抜に比べて高く、競争は激しくなります。

選考方法は、調査書、特色選抜志願理由書、作文・小論文、面接・学校独自検査(学校作成問題、口頭試問、実技など)の結果などをもとに可否を判定します。ほとんどのものが、普段の学習では触れない試験なので、特色選抜に挑戦する場合は、それに応じた対策が必要となります。また、高校ごとに課される試験やその出題傾向が異なるので、過去にどのような問題が課されていたのかを、事前に確認しておくことも大事です。

作文・小論文は、一般選抜の国語に含まれる出題よりも字数が多く、出題内容も異なります。時間内で適切な内容・字数を書き上げる練習をしておきましょう。良い悪いの判断は自分では難しいので、先生に添削してもらってください。

面接は、過去のデータをもとに、質問に対して明確な返答ができるように、先生たちと何度も練習しましょう。



3. 一般選抜とは

今年度は3月6日に実施されます。調査書(500点)と学力検査(500点)の合計点を学校によって面接を行います。これらをもとに可否が判定されます。調査書の評価は中学3年間の通知票の9教科・5段階の評定を点数化したものです。学力検査は試験当日の5教科・各100点満点の試験の合計点です。

ただし、調査書と学力検査の点数の比重は、各高校・学科で決められています。多くの学校、特に普通科は、学力検査の比重を大きくしているため、入試当日の試験結果が可否を大きく左右します。受験生の皆さんは、早めに志望校を決定して調べておいてください。

4. 学力検査で失敗しないために

開倫塾では、受験本科コースの受講生に県立高校の過去問題集を配付しています。過去問を繰り返し解き、傾向をつかんでおきましょう。
【国語】読解問題3問に加え、240字以内の作文が出題されます。最後まで解き終わるよう、時間配分に気をつけましょう。
【数学】近年はデータ活用問題が頻出しています。記述の問題も多いので途中の計算や証明などの「書く」練習をしっかりとっておきましょう。
【英語】リスニングが26点の配点なので注意が必要です。また、11分の放送後に長文読解が3問あるので、速読力が求められます。

【理科・社会】各分野・単元からまんべんなく出題されます。ヤマを張らずに苦手を分野を極力減らすよう心掛けましょう。入試本番までの時間は限られています。この先も真剣に取り組み、試験の直前まで伸び続ける。自分の努力を信じて頑張りましょう。

